

(3)生物多様性について

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。地球上では社会経済活動や開発事業などによって、多くの生きものたちが危機にさらされているだけでなく、生きものとのつながりの中で生きている人間への影響も懸念されています。

西宮市には、北部の山並み、南部の干潟や自然の砂浜が残る海浜、そして南北を結ぶ武庫川・夙川等の河川など豊かな自然があります。市は、これらの保護や生物多様性の保全、持続可能な利用に向け、平成24年3月に「未来につなぐ生物多様性にしのみや戦略」を策定して様々な取り組みを進めています。

市民の皆様には日々の生活から見た生物多様性の保全に関してご意見をお聞きし、今後の事業に役立てていきたいと考えています。

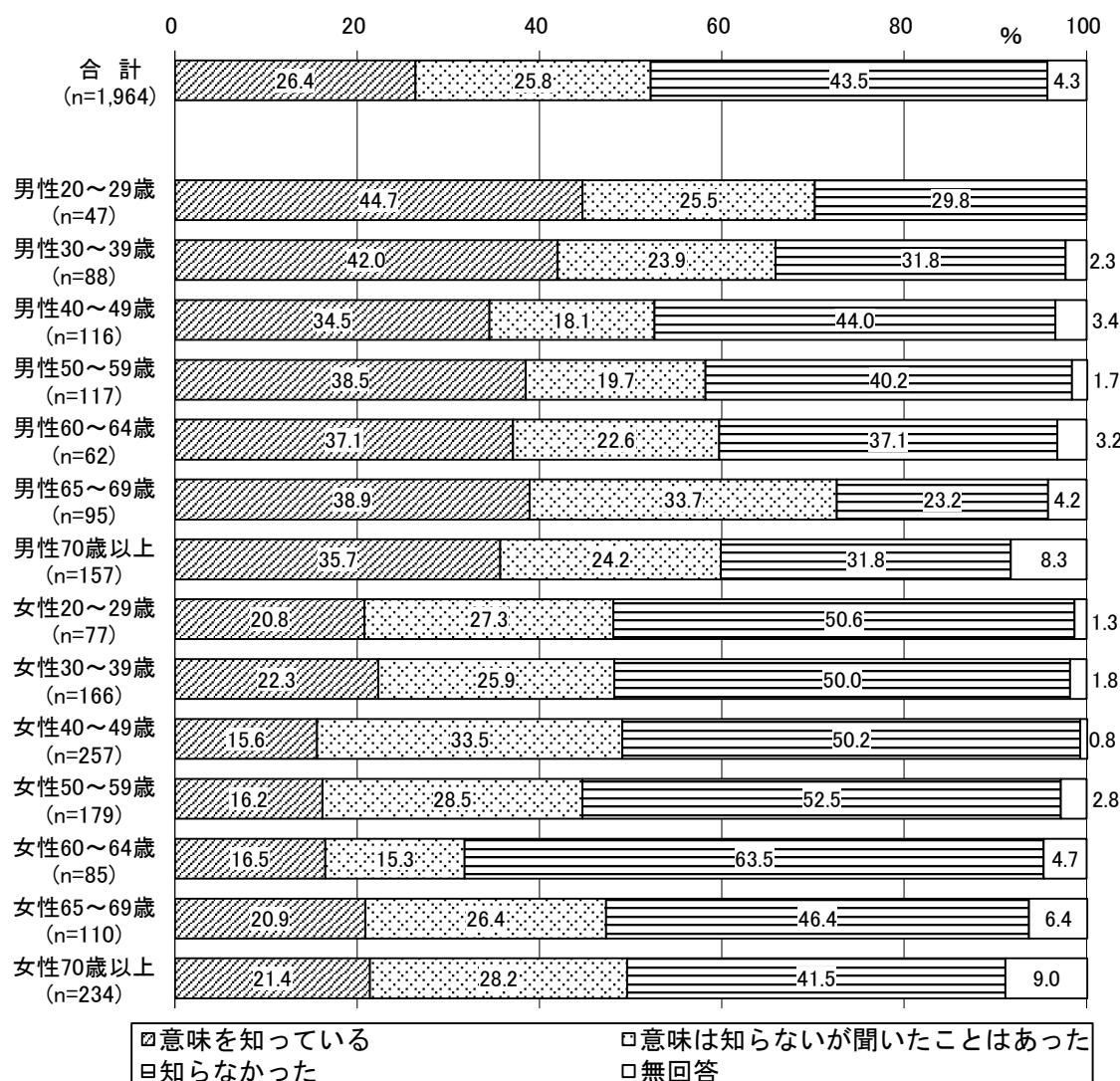
■ 「生物多様性」を知っていたか

問 19 「生物多様性」という言葉を知っていましたか。(1つ選んで○)

生物多様性について知っているのは約半数、若年男性では7割を占める結果。

- ・生物多様性の「意味を知っている」とする割合は26.4%、「意味は知らないが聞いたことはあった」とする割合は25.8%で、約半数の回答者は少なくとも耳にしたことがある。
- ・「意味を知っている」「意味は知らないが聞いたことはあった」の割合は概して男性が高く、男性20～29歳ではこれらの合計値が70.2%と最も高い。「意味を知っている」の割合が最も低いのは女性40～49歳の層である。

「生物多様性」を知っていたか

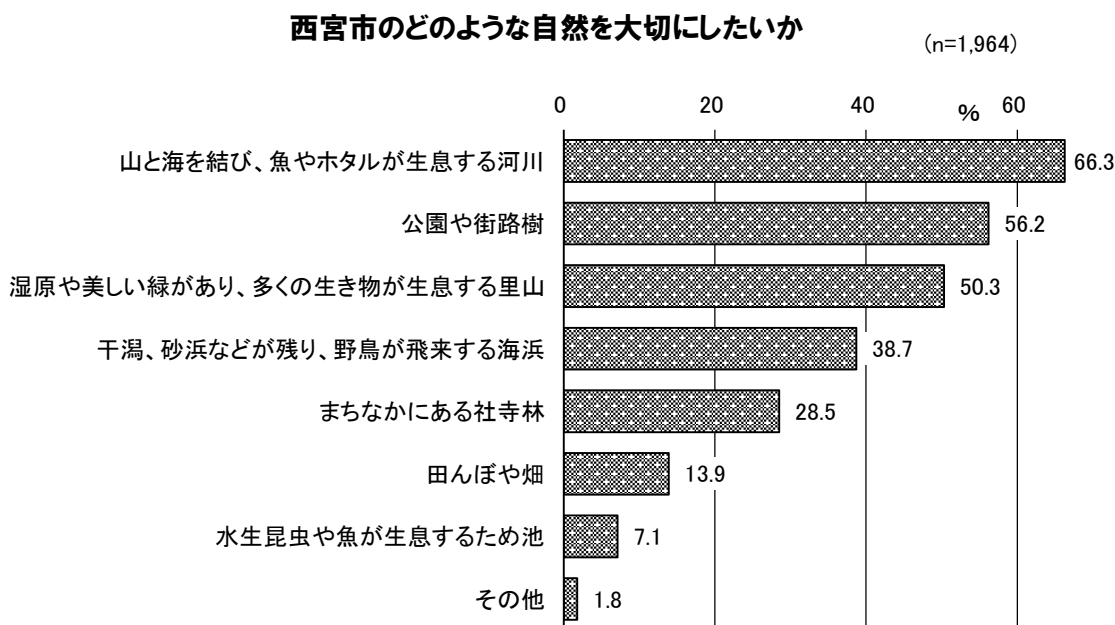


■西宮市のどのような自然を大切にしたいか

問 20 西宮市は、都市部にありながら山、川、海の豊かな自然環境に恵まれています。生物多様性の保全のために、こうした西宮ならではの多様な自然を守ることが重要な取り組みとなっていますが、あなたは、西宮市のどのような自然を大切にしたいと思いますか。(3つまで選んで○)

自然な河川や身近な公園環境への関心が高い。

- ・「山と海を結び、魚やホタルが生息する河川」(66.3%)、「公園や街路樹」(56.2%)、「湿原や美しい緑があり、多くの生き物が生息する里山」(50.3%)が高く、いずれも半数以上の支持を得ている。



- ・性・年齢別にみると「湿原や美しい緑があり、多くの生き物が生息する里山」に対しては男性30～39歳が高い。「干潟、砂浜などが残り、野鳥が飛来する海浜」は全体では第4位であるが、男性の60～69歳では半数以上が支持している。また「水生昆虫や魚が生息するため池」に対しては、男性20～29歳の層で比較的高い。

	湿原や美しい緑があり、多くの生き物が生息する里山	干潟、砂浜などが残り、野鳥が飛来する海浜	山と海を結び、魚やホタルが生息する河川	水生昆虫や魚が生息するため池	まちなかにある社寺林	公園や街路樹	田んぼや畑	その他
全 体(n=1,964)	50.3	38.7	66.3	7.1	28.5	56.2	13.9	1.8
男性 20～29 歳(n=47)	44.7	46.8	59.6	19.1	34.0	31.9	12.8	0.0
男性 30～39 歳(n=88)	61.4	42.0	73.9	6.8	23.9	51.1	11.4	1.1
男性 40～49 歳(n=116)	50.9	43.1	69.8	7.8	28.4	44.8	16.4	0.9
男性 50～59 歳(n=117)	50.4	47.0	69.2	8.5	29.1	53.8	10.3	2.6
男性 60～64 歳(n=62)	53.2	50.0	66.1	8.1	29.0	53.2	9.7	4.8
男性 65～69 歳(n=95)	50.5	54.7	65.3	8.4	26.3	49.5	11.6	1.1
男性 70 歳以上(n=157)	54.1	36.3	61.1	11.5	23.6	60.5	12.7	2.5
女性 20～29 歳(n=77)	54.5	33.8	70.1	7.8	22.1	58.4	20.8	1.3
女性 30～39 歳(n=166)	48.2	27.7	70.5	9.0	28.9	63.3	21.1	1.8
女性 40～49 歳(n=257)	46.7	36.6	68.1	7.4	29.6	59.5	14.8	1.2
女性 50～59 歳(n=179)	52.5	40.8	73.2	4.5	27.9	57.5	10.6	0.6
女性 60～64 歳(n=85)	47.1	25.9	70.6	1.2	36.5	61.2	12.9	1.2
女性 65～69 歳(n=110)	51.8	41.8	59.1	5.5	31.8	62.7	11.8	2.7
女性 70 歳以上(n=234)	50.4	40.6	59.8	3.0	27.4	55.6	13.2	1.7

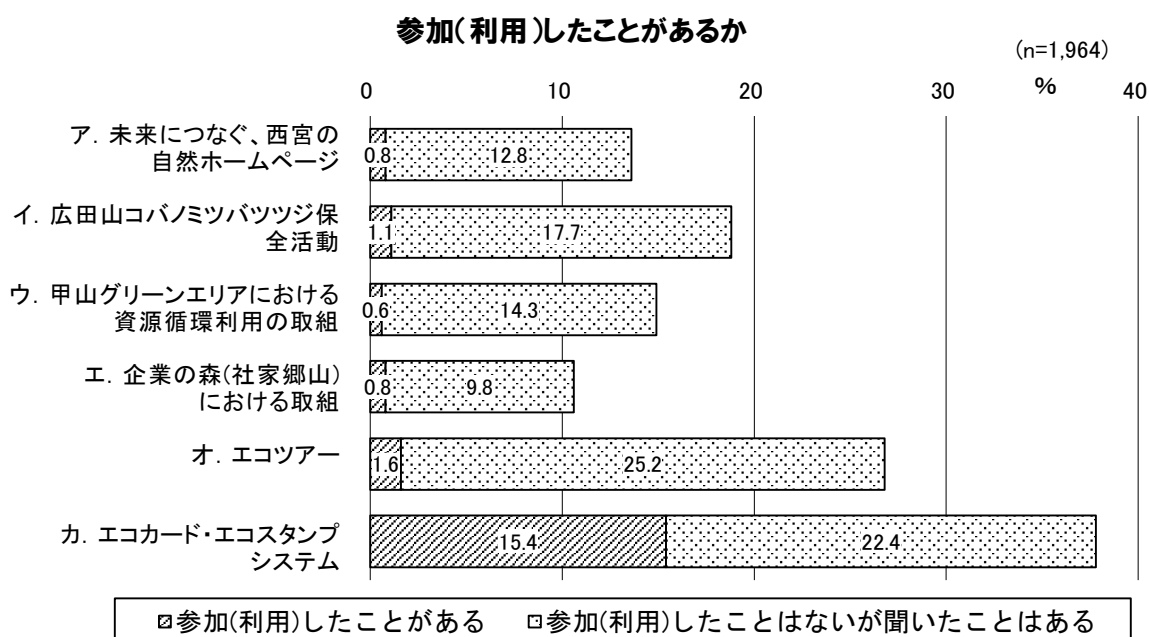
※数値の太字斜体は、全体を10ポイント以上上回るもの。

■生物多様性に関連した活動に参加（利用）したか

問 21 西宮市内での下記のそれぞれの「生物多様性に関連した活動」について、参加（利用）もしくは聞いたことがありますか。以下のそれぞれについて、1から3のあてはまるものに○をつけてください。

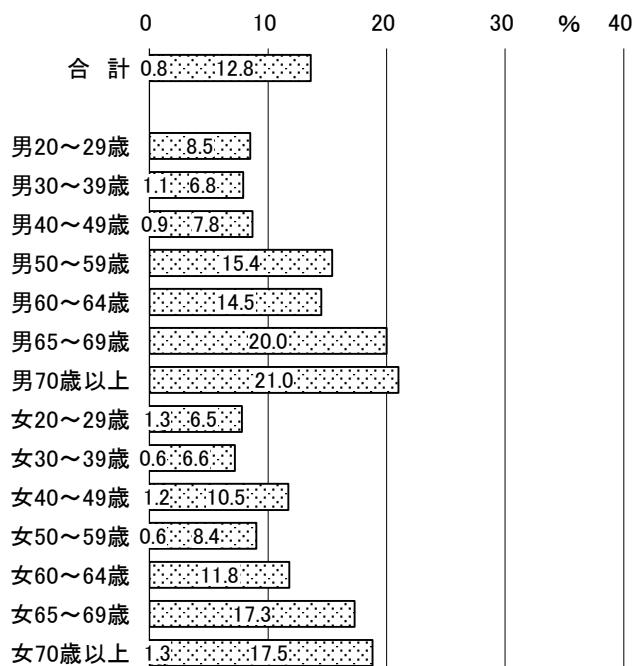
エコカード・エコスタンプシステムの利用経験がある人は15%。

- ・〈カ. エコカード・エコスタンプシステム〉が「参加（利用）したことがある」が15.4%でもっとも多い。「参加（利用）したことはないが聞いたことはある」ではくオ. エコツアー〉(25.2%)が最も多く〈カ. エコカード・エコスタンプシステム〉がこれに次ぐ。

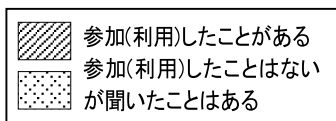
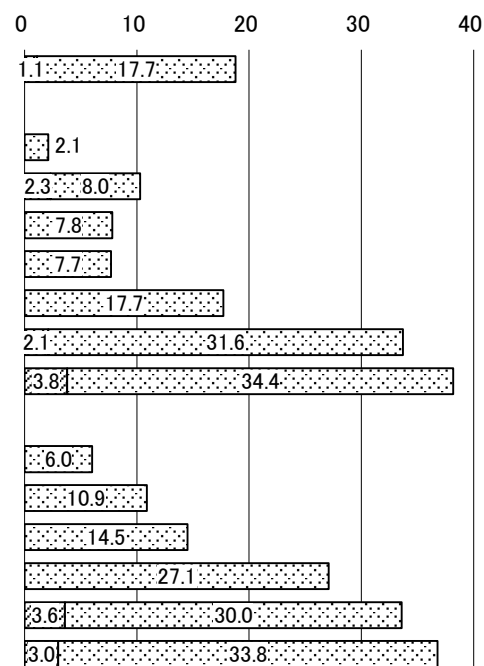


- ・性・年齢別にみると、〈カ. エコカード・エコスタンプシステム〉は女性40～49歳で「参加（利用）したことがある」が半数近くを占めている。全体的にみると、概して高齢層で「参加（利用）したことはないが聞いたことはある」が高い傾向を示している。

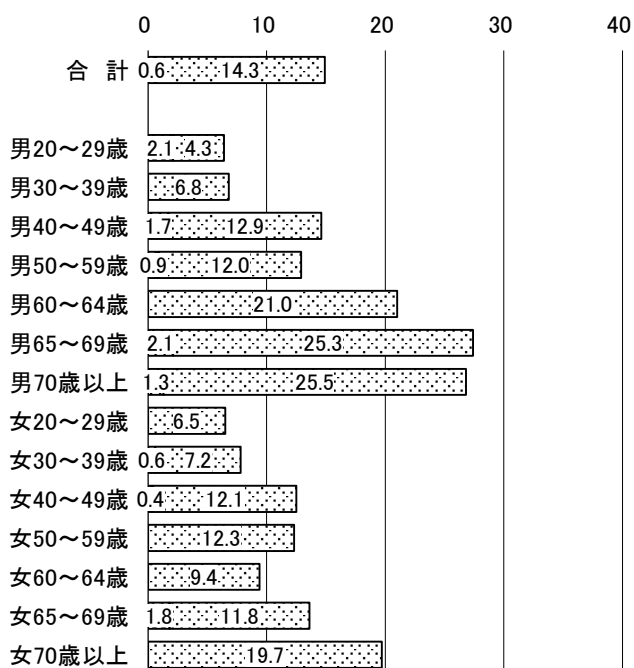
ア. 未来につなぐ、西宮の自然ホームページ



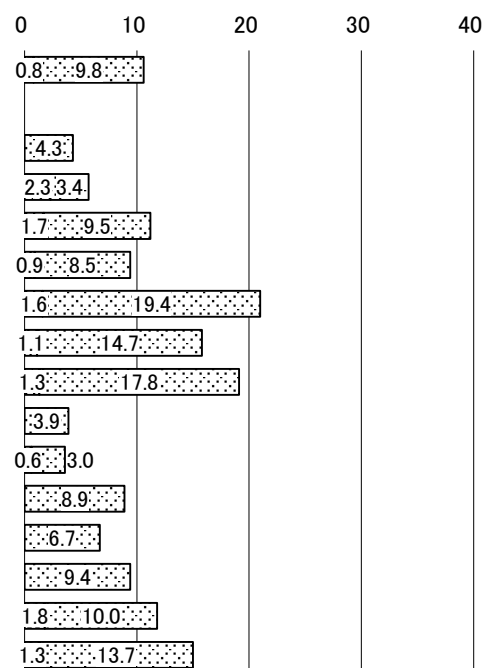
イ. 広田山コハノミツハツツジ保全活動



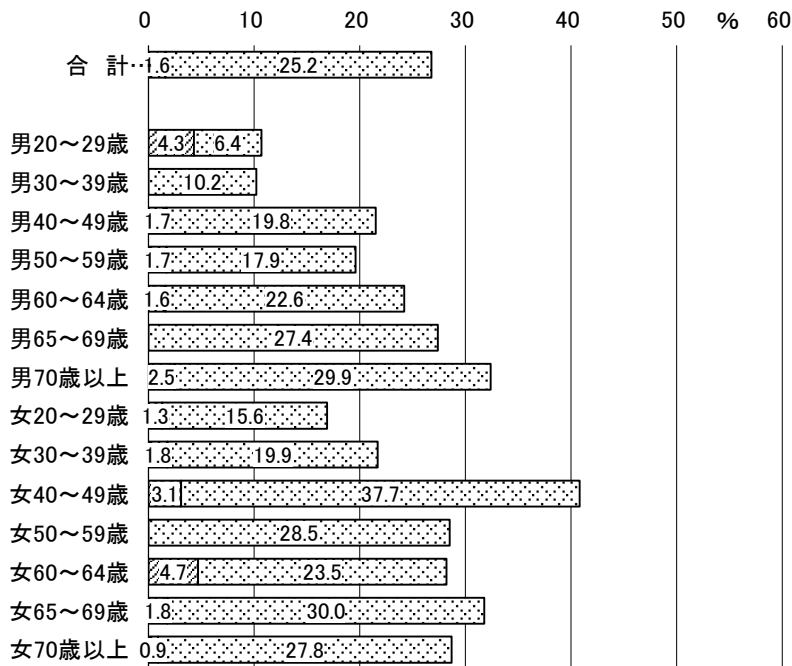
ウ. 甲山グリーンエリアにおける資源循環利用の取組





エ. 企業の森(社家郷山)における取組

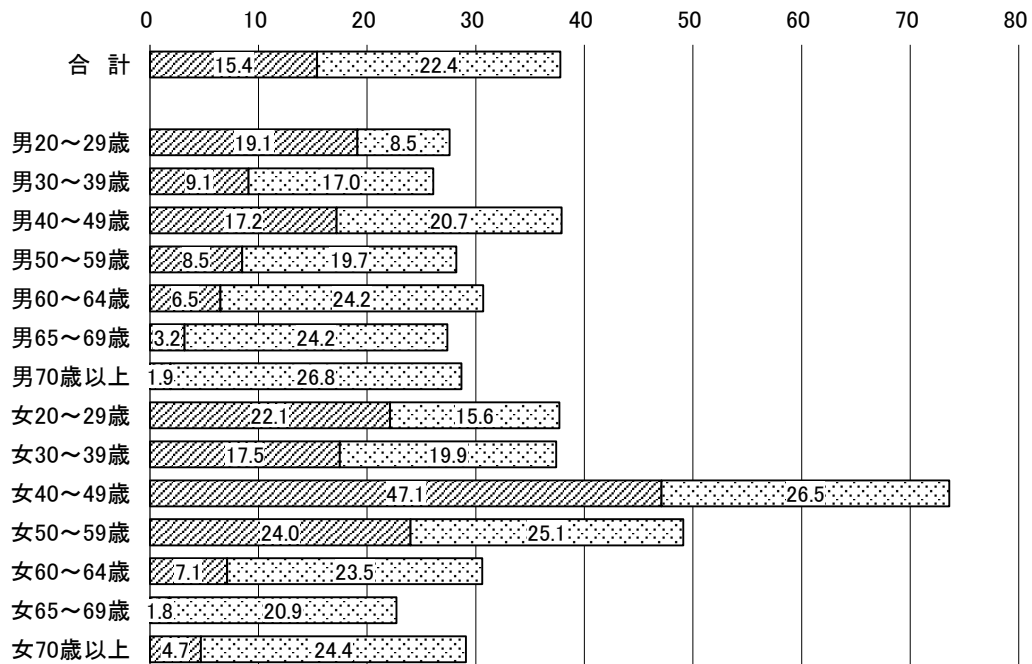


オ. エコツアー



 参加(利用)したことがある
 参加(利用)したことはないが聞いたことはある

カ. エコカード・エコスタンプシステム

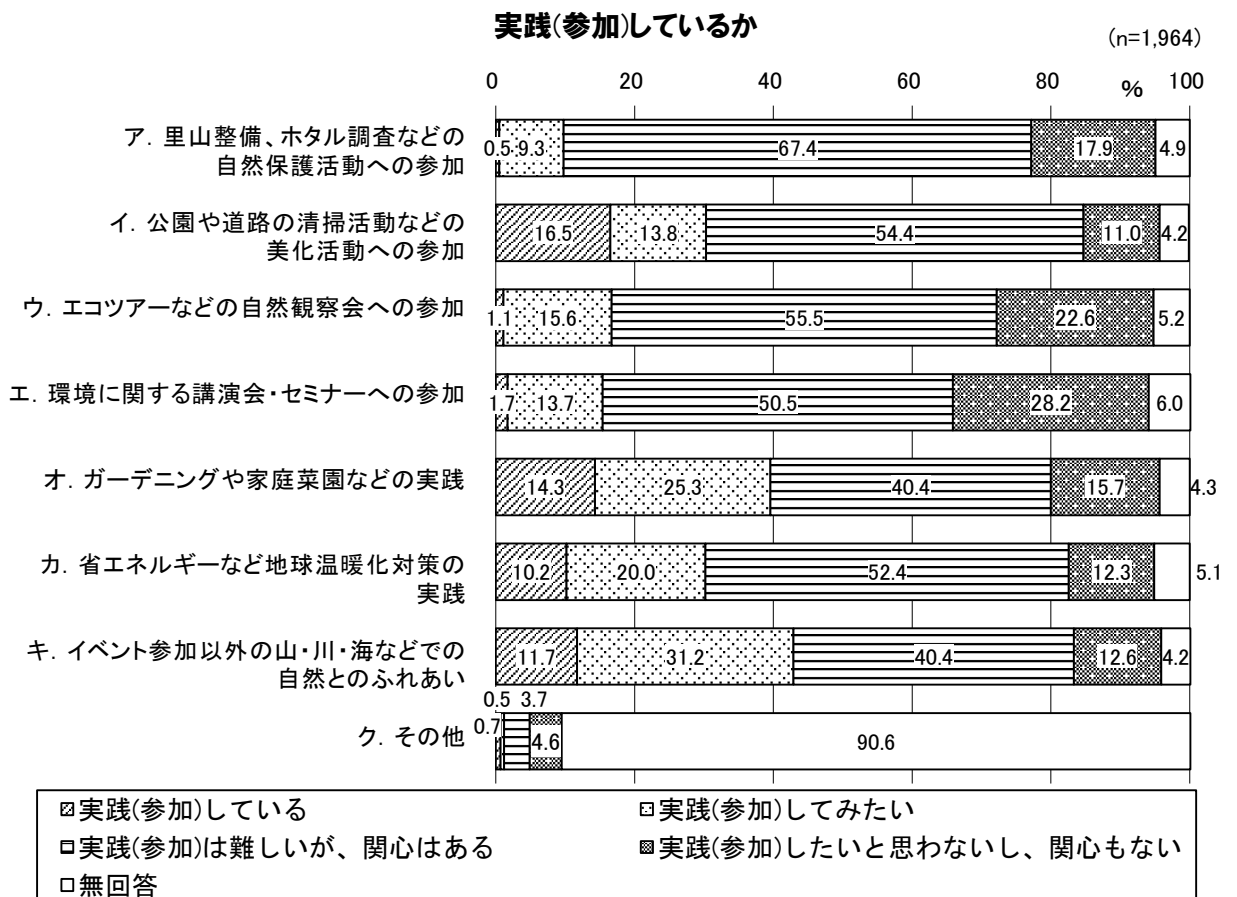


■取り組みを実践（参加）しているか

問 22 あなたは、次のような取り組みを実践していますか。以下のそれぞれについて、1から4のあてはまるものに○をつけてください。

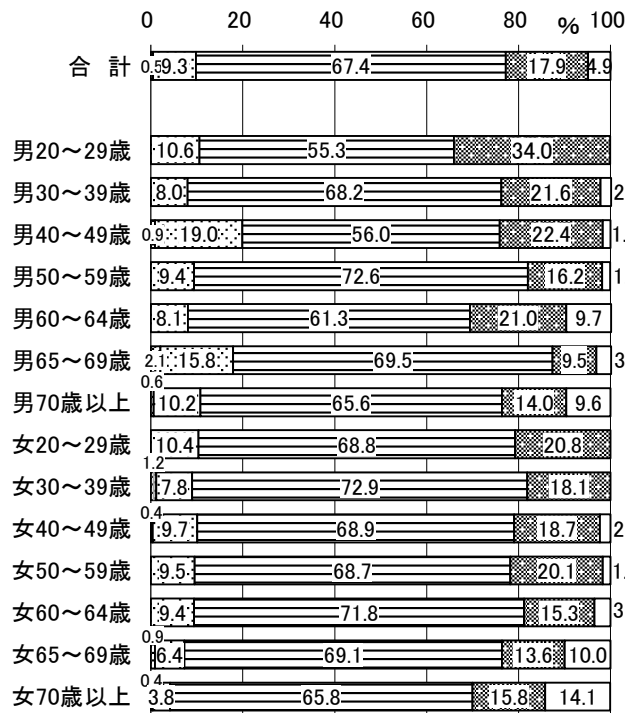
地域の美化やガーデニングなど、身近な活動が多い。

- ・「実践（参加）している」とする割合は〈イ. 公園や道路の清掃活動などの美化活動への参加〉〈オ. ガーデニングや家庭菜園などの実践〉〈キ. イベント参加以外の山・川・海などでの自然とのふれあい〉〈カ. 省エネルギーなど地球温暖化対策の実践〉の順で高く、10%を超えている。「実践（参加）してみたい」とする割合が20%を超えているのは〈キ. イベント参加以外の山・川・海などでの自然とのふれあい〉〈オ. ガーデニングや家庭菜園などの実践〉〈カ. 省エネルギーなど地球温暖化対策の実践〉である。

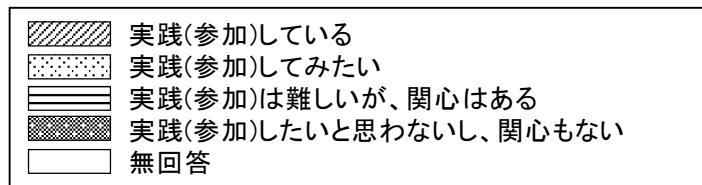
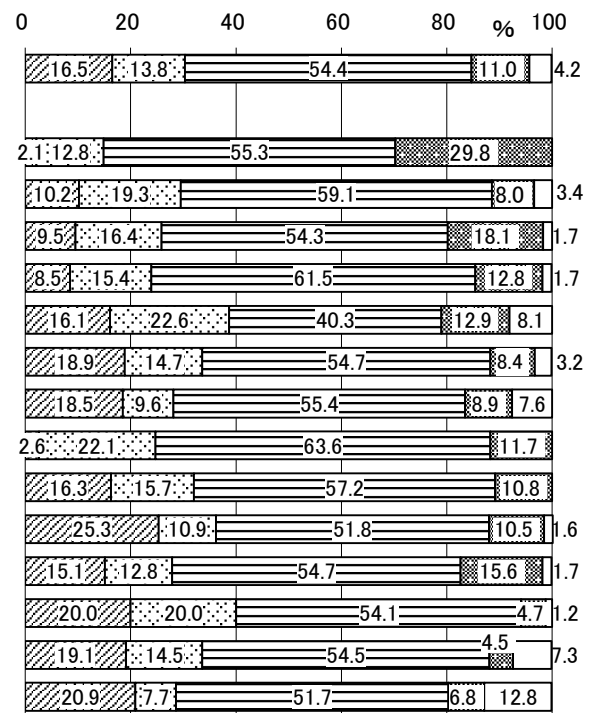


- ・性・年齢別にみると、全体的に60歳代において実践(参加)していたり、その意向が高い項目が多い。

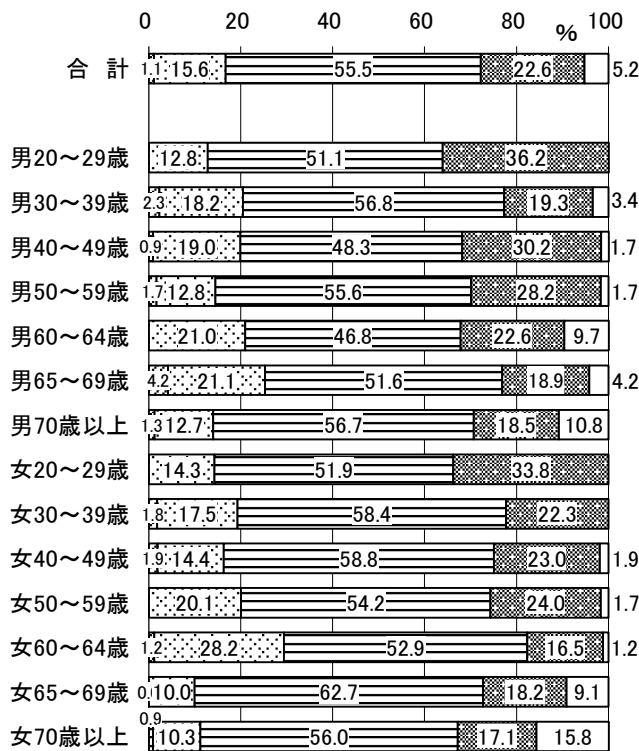
ア. 里山整備、ホタル調査などの自然保護活動への参加



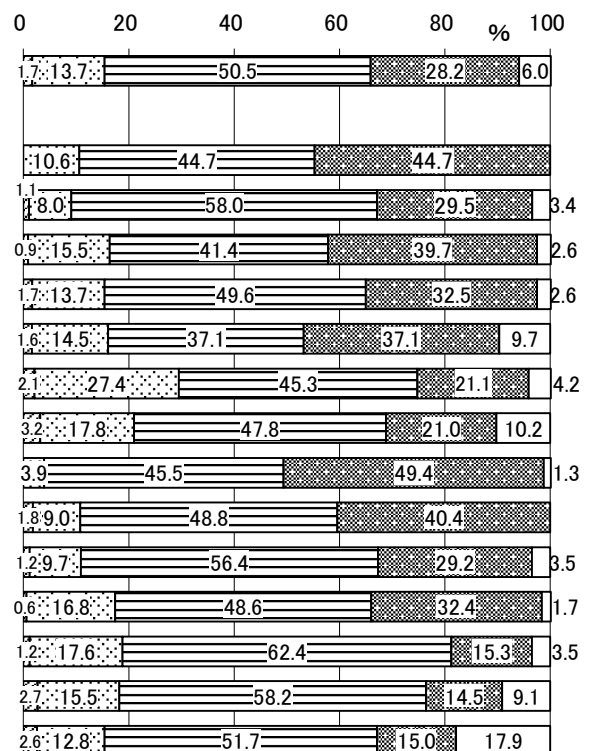
イ. 公園や道路の清掃活動などの美化活動への参加



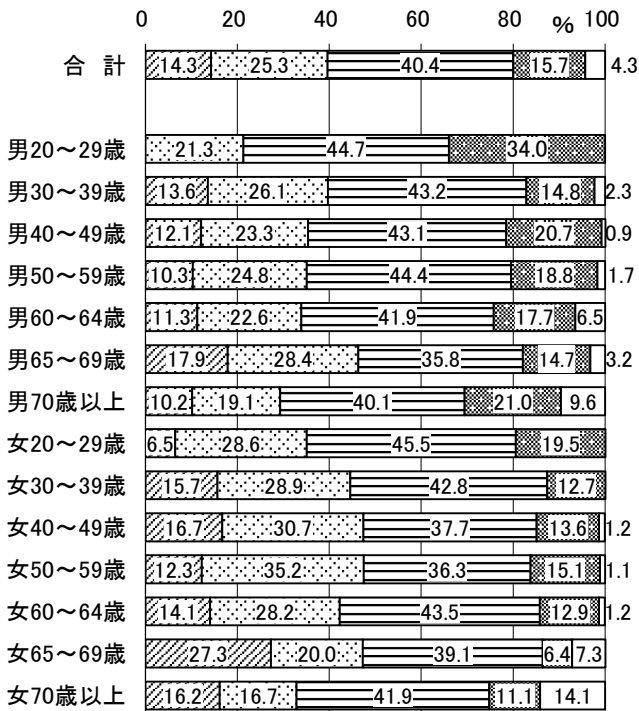
ウ. エコツアーなどの自然観察会への参加



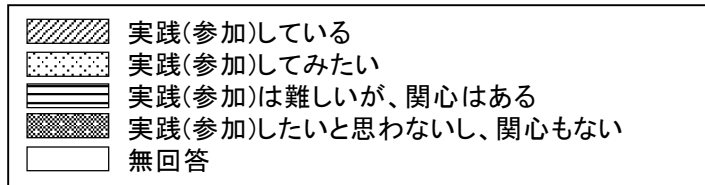
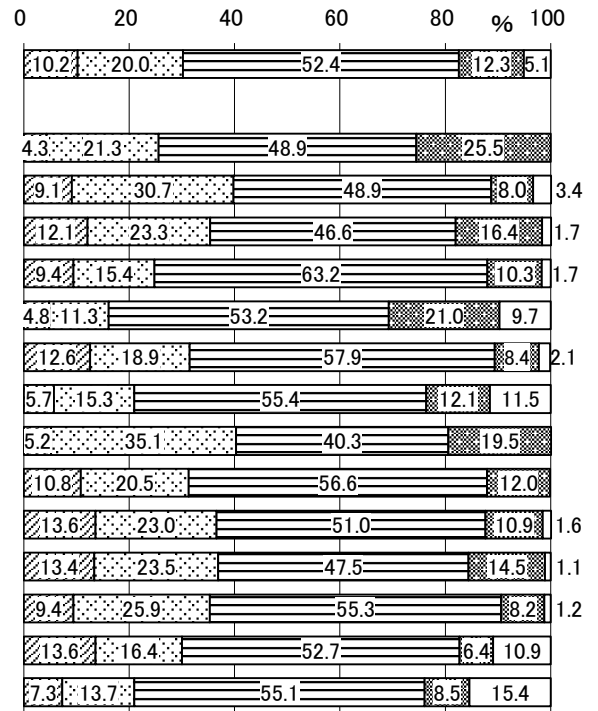
エ. 環境に関する講演会・セミナーへの参加



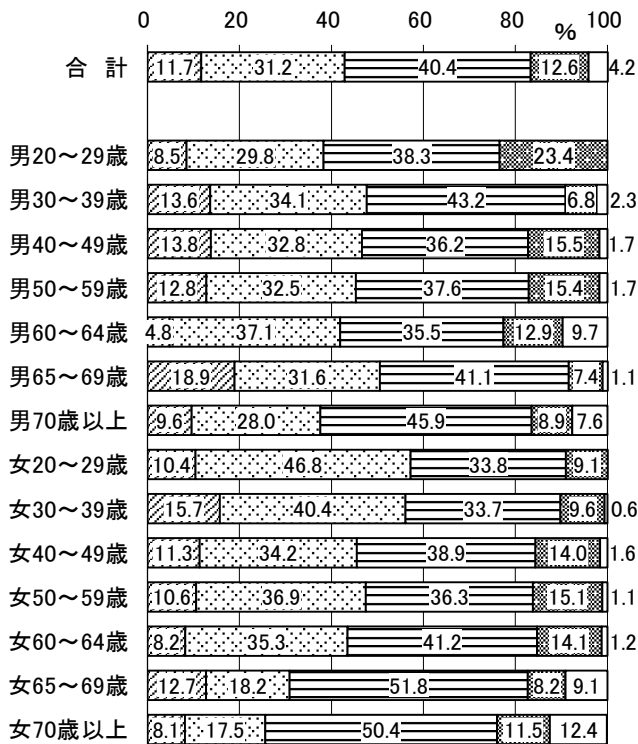
オ. ガーデニングや家庭菜園などの実践



カ. 省エネルギーなど地球温暖化対策の実践



キ. イベント参加以外の山・川・海などでの自然とのふれあい



施策に向けての一言 <生物多様性について>

自然環境の悪化に伴い生物多様性が失われつつあることが危惧されている。日本でも2008年（平成20年）に生物多様性基本法が制定されている。その前文では生物多様性が人類の存続の基盤となっていること、また地域における固有の財産として地域独自の文化の多様性をも支えていることがうたわれている。

今回の調査ではこの生物多様性についての市民の認識を確認する設問が用意された。問19は生物多様性という言葉そのものを知っているかを問うている。その結果「意味を知っている」という回答が約4分の1、「意味は知らないが聞いたことはあった」という回答が同様に約4分の1であった。この認識を性別・年代別で見ると、まず男女差が大きいことに気づく。男性はどの年代をとっても30%以上が「意味を知っている」のに対して、女性では「意味を知っている」と回答する割合が30%を超える年代が存在していない。よって、今後の施策の推進において、女性の視点を考慮に入れた啓蒙活動を図ることも必要であろう。

問20は西宮市においてどのような自然を大切にしたいと思うかを尋ねている。河川（66.3%）、公園や街路樹（56.2%）、里山（50.3%）といったものが50%を超える割合で選択されている。

生物多様性に関連した活動は市内各地で行われているが、問21はそれらへの参加経験（利用）について尋ねている。もっとも利用されていたものは、「エコカード・エコスタンプシステム」であるが、15%程度で他の項目は1%程度の参加（利用）に留まっている。また生物多様性に関連した取り組みの実践を尋ねた問22では、各活動について実践したという回答が2割を超えるものはなかった。実践の割合が10%を超えるものは美化活動への参加（16.5%）、ガーデニングや家庭菜園（14.3%）、自然とのふれあい（11.7%）、省エネルギーなど地球温暖化対策の実践（10.2%）である。

生物多様性については、より広い認知を求めていくにあたり、専門家からの助言を受けながら、市民にとってわかりやすい啓蒙活動を行なうことが望ましいであろう。生物多様性の戦略がめざす将来像に向けて、戦略で掲げる指標などを用いて西宮市の生物多様性を可視化して提示していくことは、市民の認知を高める助けとなるかもしれない。

またそれと合わせて、日々の生活実践において生物多様性をどのように確保するかを提案していく必要もあるだろう。生物多様性という言葉は知らなくても、自分たちの生活環境にとって自然や生物の保護が重要であることについて異論を唱える人は少ないであろう。エコロジーに対する市民の意識と生物多様性を上手につなげる施策が求められる。

（関西学院大学 山田真裕）